

報告I

基本法成立を機に、地域にあるものを本人視点で統合しながら、
地域共生の実現に向けた中・長期的な推進体制を築く

- 自身の「気づき」で、施策が変わる
本人とともに進めた「まちづくり」
～17年間の振り返りから～

静岡県富士宮市福祉企画課 稲垣 康次

- 行政が示した方針・役割の中で
何を大切にしながら
認知症地域支援推進員として
どのように動き、どのように感じているか

富士宮市認知症地域支援推進員 杉浦 綾乃

私のスタート～佐野光孝さんとの出会い～

佐野光孝さん 58歳



ある日突然、佐野光孝さんと奥さんが地域包括支援センターの窓口にとられました。

- ・あと少いで60歳。できる限り働きたい！
- ・なんとか働けるなら…ボランティアでもいい。
- ・営業マンだったので、人と会話するのが得意。
- ・人と接することが好き。
- ・観光が好き。
- ・富士宮焼きそばを…色々な店で食べたことがある。



夫
(認知症本人)

妻



- ・家に閉じこもってしまうと、病気が進行してしまう。
- ・安心して出かけられる場所がほしい。
- ・夫にできることがないかしら…？
- ・夫にできることは、なにかしら？

夫の思い

一家の主として、1人の男として…

家庭を支えることができない虚しさ

働いて収入を得、自分が家族を支えたいというプライドある

収入を得られない悔しさ

閉じこもった生活からの脱出（人との関わりを持つ）

共生社会の実現を推進するための認知症基本法

【基本理念】

- ・ 認知症の人が、**自らの意思**によって日常生活及び社会生活を営むことができる
- ・ 国民が、認知症に関する**正しい知識**及び認知症の**人**に関する正しい理解を深める

富士宮市の取組み



佐野光孝さんが、
商店街に、
民生委員に、
認知症サポーターに、
介護事業者に、

- ・ まだまだ働きたい。
- ・ 旅行が好き。
- ・ 焼きそばを食べ歩いている。
- ・ 卓球がすき。
- ・ 登山が好き。
- ・ ギターがすき

佐野光孝さんの周りに多くの仲間たち

商店街の方々が・・・



山登りの仲間たちが・・・

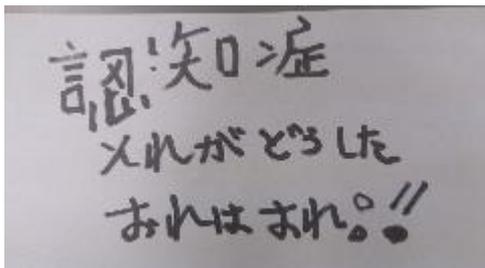


キャラバンメイトが・・・

本人とともにあゆむことで、 私（職員）の意識が変わる⇒施策が変わる

【気づき】住民の活動は、認知症の知識を付けることで生まれるのではなく、本人との出会いによって生まれるものなんだ・・・。

- 【施策】
- ・ 本人さんとともに、認知症の「人」の声を届けよう。
 - ・ 認知症サポーター養成講座のテキスト「富士宮市版」を作成



【認知症サポーター養成講座のテキスト】

認知症は、アルツハイマー型認知症と脳血管性認知症・・・
中核症状と周辺症状
物盗られ妄想、せん妄、幻覚・錯覚、介護拒否、徘徊・・・

★★★★認知症に詳しくなる。★★★★

【富士宮市版テキスト】

やりたいこと、楽しいことができるように、いっしょに考えよう
<自分が認知症になった時、どんな生活を送りたいか？>

○卓球をしたい。	○墓参りにいきたい。
○馴染みの床屋に通いたい。	○コンサートに出かけたい。

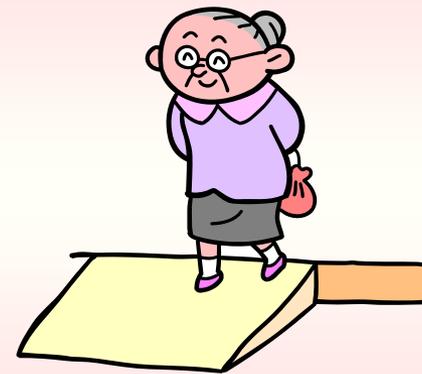
★★★★認知症の「人」に詳しくなる。★★★★

本人とともにあゆむことで、 私（職員）の意識が変わる⇒施策が変わる



83歳女性

- ▶ 1日4回、往復1時間かけて、神社の掃除に行く。
- ▶ 掃除に行った事を忘れてしまい、また行ってしまう。
- ▶ 広い道路をよく見ずに渡ってしまう。
- ▶ 一度、道を間違えて、遠くへ行ってしまったことがある。



【気づき】ケアマネと保健師と議論するうちに…

この女性に必要なことは、

★徘徊・見守りSOSネットワークシステムの構築ではなく、

★「**認知症になっても安心して歩けるまち**」をめざすことなのでは？

【施策】認知症になっても安心して歩けるまち

1 日常見守り時

本人が安全に歩けること。

家族が安心して送りだせること。

2 見当たらない時 (早期発見の方法)

家族が「あれ？いない」と思った時に、
早期発見・早期対応できること。

介護者・事業所等がいち早く状況を確認でき、
必要なところ（警察・民生委員・区長から消防団）に
支援を求めることができる。

3 行方不明時

あらゆる市民が気にかけてくれて、
情報を寄せてくれる。



地図上支援マップ

関係者が集まり会議を開催

息子、民生委員、ケアマネジャー、ホームヘルパー、社会福祉協議会、地域包括支援センター)

○散歩ルートをみんなで歩いて、支援してくれそうなお宅を確認

○家族了解のもと、本人の写真を撮り、散歩コースの地図を作り、チラシ「暖かく見守ってください」を作成

○家族、民生委員、ケアマネジャーが支援してくれそうなお宅を訪問

「安心して散歩がしたい」
皆様の暖かい目と手をお貸しください



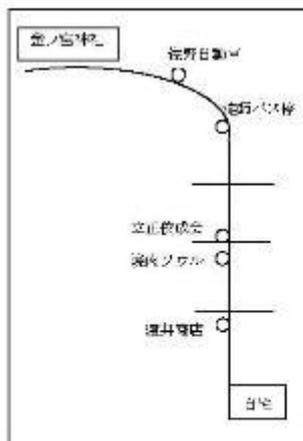
《お願い》

金ノ宮神社へ散歩や掃除に行くのが日課になっている認知症の方がいます。散歩の途中で、体調が悪くなった時、怪我をした時、家がわからなくなってしまった時、ご自分で助けを呼んだり、判断する事が出来ません。この方が、一日でも長く安心して散歩へ出かけられるように、地域の皆様の温かい目と見守りに、ご協力ください。

氏名 B さん
住所

《特徴》

- ・色黒で白髪
- ・エプロンか割烹着を着ている事が多い
- ・金の宮神社へ行くのが日課・神社内では掃除をしたり、景色を見ている
- ・声を掛けられた時、本人の意向に沿わない事があると、表情が険しくなり怒る事がある
- ・聞かれた事や、本人が言う事がわかりにくい事があり会話は成り立たない時がある



《緊急連絡先》

※体調が悪そうな時、道に迷っていそうな時、自宅と反対方向に歩いている時などご連絡下さい

- 1) 携帯 ()
- 2) グリーンティ-居宅介護支援事業所
担当ケアマネジャー 深澤久美子
0544- [REDACTED]
080- [REDACTED]
- 3) 富士宮市地域包括支援センター
0544-22-1591
- 4) 夢コ-プ (ヘルパーステーション)
0544-25-6050
- 5) 地域型支援センター 社会福祉協議会
0544-22-0094



行方不明時の対応

事例検証

■警察のデータ分析

■事業所調査

■個別事例の聞き取り調査

■見当たらないと気づいてからの家族の行動が心当たりを探すのに時間が費やされて警察への連絡が遅れている。

■警察から同報無線につながってからは、夜でも比較的早い時間で保護されている。

(流れを確立して市民に周知)

認知症の方が見当たらない場合、家族・事業所スタッフは、1時間捜して発見できなかつたら警察に届けること。

⇒市内全域に行方不明者情報が同報無線で流れる。

⇒新聞配達員、消防団、民生委員など、登録者には同報無線情報が携帯メールに発信される。

(周知徹底)

家族・事業所は・・・1時間以内(明るいうち)に警察へ

支援者は……………携帯登録を

(福祉事業者、消防団、民生委員、自治会長、新聞配達員、宅配業者、タクシー運転手、バス運転手、清掃業者、ゴミ収集業者、ガス会社等)

ラジオ局の協力……………同報無線の内容を番組中に放送

本人とともにあゆみ続けたことで、まち全体に広がったもの

市民の自主活動

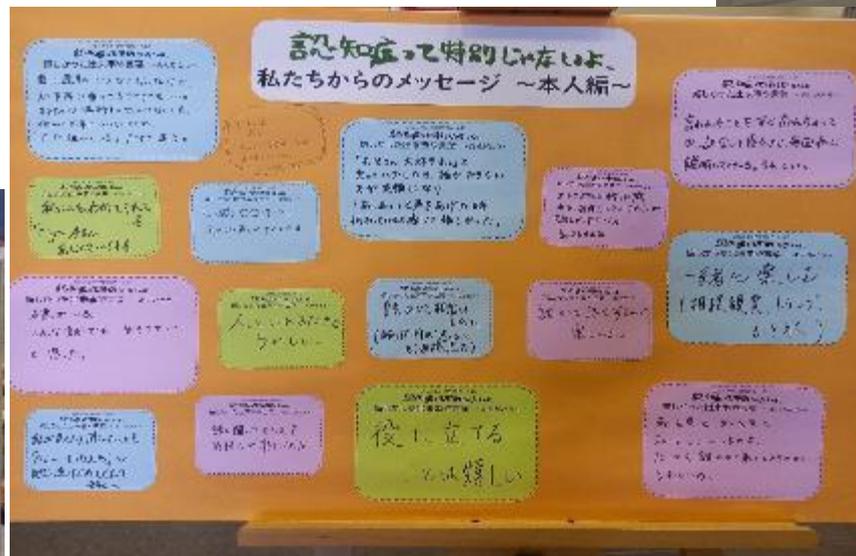
ご本人、家族が出会える場所、集える場所（認知症カフェ）

働く場

関係機関との連携

市民の自主活動（キャラバンメイト市内450人）

- ・キャラバンメイト連絡会
- ・市民の広報活動（キャラバンメイト通信、市役所やイオンでのパネル展の開催）
- ・認知症サポーター養成講座の講師（仲間づくり）
- ・イベントの参加、運営（商店街十六市での認知症相談会、Dシリーズ）
- ・認知症カフェの参加、運営、立上げ（本人、キャラバンメイトが参加する認知症カフェから「畑」「ゴルフ」「ウォーキング」等の企画イベントが生まれる。）



ご本人、家族が出会える場所、集える場所（認知症カフェ・21か所）

- ◆本人、キャラバンメイトが参加する認知症カフェから「畑」「ゴルフ」「ウォーキング」等の企画イベントが生まれる。
- ◆地域のキャラバンメイト、委託包括の認知症地域支援推進員、生活支援コーディネーター（社会福祉協議会）を巻き込み、イベント開催から月1回の定期開催（認知症カフェ）に変化
- ◆「認知症カフェ打ちっぱなしゴルフの会」のエピソード（受診拒否のあった男性）
 - ・地域包括の認知症地域支援推進員から初期集中支援チーム、認知症疾患医療センターへの受診、介護サービスの利用を経て、お寺カフェへの参加につながる。
 - ・お寺カフェでの雑談の中で、ゴルフの話となり、認知症地域支援推進員のコーディネートにより、「認知症カフェ打ちっぱなしゴルフの会」が立ち上がる。
 - ・認知症疾患医療センターの医師も参加。本人からゴルフの指導を受ける

認知症カフェ「打ちっぱなしゴルフの会」

認知症カフェ「はたけ倶楽部」



認知症カフェ「ウォーキングクラブ」



働く場

＜木工房「いつでもゆめを」の立上げ＞ 平成25年

- ◆介護施設の経営者が、本人の講演会で「居場所がない・仕事がほしい」との声を聞いたことがきっかけとなり、木工房「いつでもゆめを」(車椅子用体重計の製作・販売)を開設
- ◆会社名「いつでもゆめを」は本人と一緒に考えた
- ◆現在は、本人9人が活動し、認知症疾患医療センターの相談機関から直接紹介されることもある



いつでもゆめを

木工房「いつでもゆめを」



EPO



関係機関との連携（認知症地域医療機関ネットワーク研究会）

- ・認知症サポート医と市の施策について話し合う場（基本スタンスを共有）
- ・地域支援推進員と認知症サポート医との顔の見える関係づくり。（初期集中支援チームは、地域包括支援センター・地域支援推進員の日々の関りがベースとなる）

認知症地域医療機関ネットワーク研究会
認知症サポート医と認知症地域支援推進員と市



現在の取組み

市の姿勢を関係者と共有する。伝え続ける。

富士宮市では「認知症地域支援推進員の役割」を次のように定める。

1. 本人・家族の個別支援（本人が希望を持てるように、ともに歩む）
2. 本人・家族を地域の資源につなげる。足りない資源を創り出す。

（厚労省の資料では）

1. 医療・介護等の支援ネットワーク構築
2. 関係機関と連携した事業の企画・調整
（処遇困難事例の検討及び個別支援、認知症カフェ等の開設、社会参加活動のための体制整備等）
3. 相談支援・支援体制構築
（必要なサービスが認知症の人や家族に提供されるための調整）

⇒処遇困難事例の対応や、医療や介護のネットワーク構築は、地域包括支援センターの総合相談支援業務、包括的・継続的ケアマネジメント支援業務、在宅医療・介護連携推進事業等において、包括スタッフ全員が既に取り組んでいるところ。

それぞれの役割を、丁寧に丁寧に、何度も何度も、確認する。

	役割	確認の機会
市（基幹型地域包括支援センター）	基幹団体の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センター長との業務評価ヒアリング（年2回） ・地域包括支援センター長会議（毎月） ・認知症地域支援推進員会議（隔月） ・社会福祉協議会生活支援コーディネーター及び地区社協スタッフとの進捗会議（毎月） ・認知症地域医療機関ネットワーク研究会 ・その他（生活支援体制整備事業第1層協議体、権利擁護ネットワーク委員会、在宅医療介護連携協議会など）
地域型地域包括支援センター	個別支援	<ul style="list-style-type: none"> ・市の業務評価ヒアリング（年2回） ・地域包括支援センター長会議（毎月） ・認知症地域支援推進員会議（隔月） ・社会福祉協議会（生活支援コーディネーター）との事例共有会議（毎月）
社会福祉協議会（生活支援コーディネーター）	地域支援	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターとの事例共有会議（毎月） ・第2層協議体、地区社協の活動支援（地区役員、ボランティア団体、企業等との連携）

市職員として、私が気付いたこと

1 本人とともに考えることで、施策がかわる。

- ・認知症サポーター養成講座、富士宮市版テキスト作成
- ・徘徊SOSネットワーク⇒認知症になっても安心して歩けるまち、富士宮

2 認知症施策は、新たな事業を立ち上げるのではなく、本人の視点から、今あるものを見直してみることに。

- ・本人の活動場所が広がる（観光ガイドボランティア、卓球等）⇒啓発の工夫
- ・認知症になっても安心して歩けるまち
⇒支援マップ、同報無線の活用、携帯配信、コミュニティラジオ放送
- ・認知症サポーターの活動支援⇒認知症サポーター・ステップアップ講座

3 理屈や仕組みよりも、まずは顔の見える関係づくりから

- ・認知症医療機関ネットワーク研究会（認知症地域支援推進員と認知症サポート医）
- ・キャラバンメイト活動支援（商店街十六市で認知症相談会、イオンカフェ）
- ・地域生活支援体制整備事業
（地域包括支援センターと社会福祉協議会との事例共有会議）

4 専門職と事務職が話し合うこと。実はこれが一番大事。

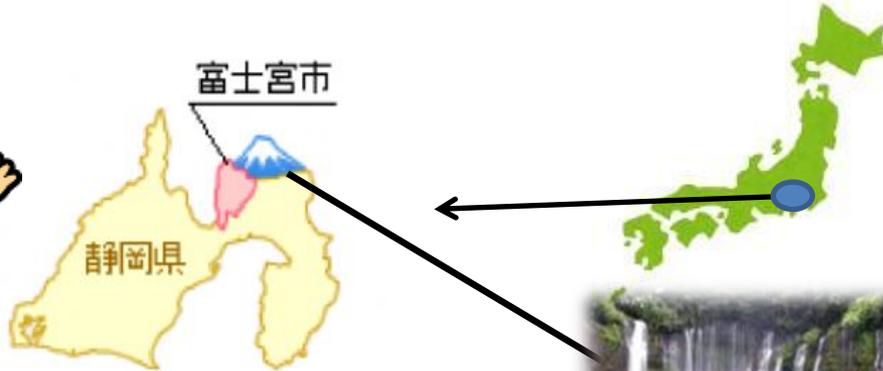
- ・専門職から本人視点の学びを！

**行政が示した方針・役割の中で
何を大切にしながら
認知症地域支援推進員として
どのように動き、どのように感じているか**

富士宮市の概況



©富士宮市さくやちゃん



富士山の西南麓に広がるまち自然豊かなまち。
・富士山本宮浅間大社の門前町として栄えてきた。
・富士山の雪解け水を源とする豊富な湧き水が豊富。

面積・・・388.99km²
(東西20.92km、南北32.63km)
標高・・・海拔 35m ~ 3,776m

人口： 128,246人(R5.12.1現在)
高齢化率： 30.61%

地域包括支援センター(直営1・委託5)

認知症地域支援推進員数 8人
(専属：1名 兼務：7名)



個別支援の充実

- ・ その人自身の声をよく聴き、思いや生活を大切にすること
- ・ 支援を介護保険サービスや医療につなげて終了とせず、その人にとって何が必要かという視点を持ち、関係機関とつながること
- ・ そこから、必要な活動やしくみを考えていくこと

認知症の人やその家族の視点の重視

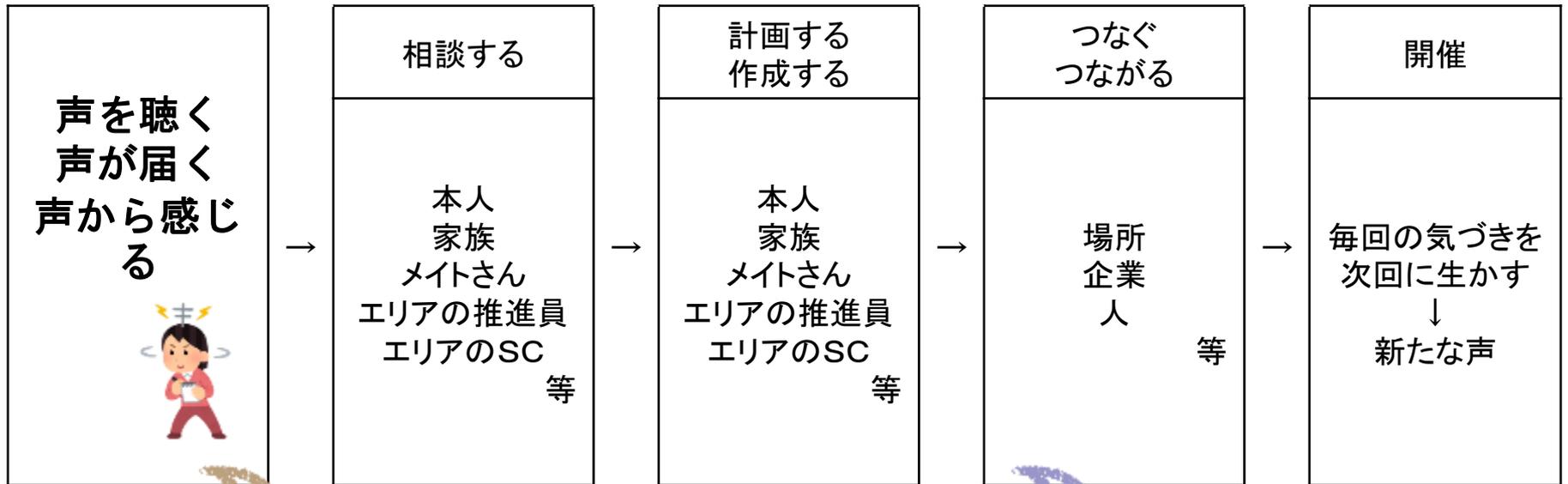
- ・ いろいろな場面で、本人が発言できること
- ・ 本人や家族が集い、出会うことのできる場を増やしていくこと
- ・ 相談しやすい体制と専門職のスキルアップ



住民主体の活動支援

- ・ 地域住民と行政が目線を合わせて、意見を言い合える環境
- ・ 住民が中心となり認知症の理解啓発活動や居場所づくりに取り組めるための後方支援
- ・ 住民自身が認知症を自分ごととして捉え、活動が楽しめるための支援

声からはじまる活動 ～聞いた声・感じていることから～



認知症カフェ

フォーラム
(年1回)

認知症
サポーター
養成講座

認知症
ケアパス

パネル展

ステップ
アップ講座
(チームオレンジ)

「声」から
テーマや
掲載すべき内容
伝える表現
が決まる

【開催までの道のり】

- 1) 市内で開催されている認知症カフェの中で、運転の相談が増えてきた
- 2) 認知症の人に聞いてみると、家族よりも誰よりも、一番自分自身の運転について真剣に考えていた
- 3) 医療機関との連携の中で、運転免許証を返納することで、落ち込みが激しい人が多いことを知った
- 4) 高齢者講習を受講している高齢者の中で、自動車学校の職員の方が気になる人や困ったことがあるのではないかと考え、自動車学校を訪問した

地域で運転のことを気軽に話せる場が欲しい！
と自動車学校に相談

賛同していただき、開催決定！

令和5年 9月 市役所でおこなわれた出張カフェに先生が参加
10月 自動車学校 de 認知症カフェ 開催



【話し合いの中で何度も何度も目的を確認】

目的は辞めさせる・諦めさせることではなく、“知る”こと“自身で考える”きっかけに！

声からはじまる活動 ～聞いた声・感じていることから～

声を聴く
声が届く
声から感じる



相談する

本人
家族
メイトさん
エリアの推進員
エリアのSC
等

計画する
作成する

本人
家族
メイトさん
エリアの推進員
エリアのSC
等

つなぐ
つながる

場所
企業
人
等

開催

毎回の気づきを
次回に生かす
↓
新たな声

認知症地域推進員の役割

- ・本人や家族、市民とともにこれからの暮らしを考える
- ・認知症の人の理解の輪を広げる
- ・本人が(に)必要とする機関の架け橋。足りない資源を創り出す。

本人含め地域の仲間と

一緒に過ごし、悩み、考え、**一緒に行動**

・個別支援をしている中で、
つながる

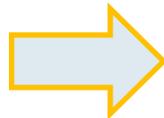
・地域住民と対話をする中で、
つながる

私たちがすべきこと、
つながるべき場所は
「人」が教えてくれる

行政（基幹包括）から各地域包括支援センターに毎年伝達
＝個別支援をしている人たちの意識が変わる

声からはじまる活動 ～聞いた声・感じていることから～

ゴミがうまく
出せない人がいる
地域でできることが
ないかな？

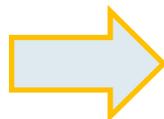


- ・本人
- ・地域の人
- ・地域包括支援センター
- ・福祉企画課(行政)
- ・環境企画課(行政)
- ・清掃業者



その日にゴミ回収があるかを伝える看板

お店の人に
わかっていて
ほしいな

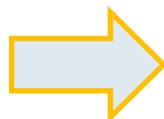


認知症サポーター
養成講座

- ・本人
- ・地域包括支援センター
- ・認知症キャラバンメイト
- ・馴染みのあるお店



素敵な声や
活動を
地域に伝えたい



啓発パネル展

- ・本人
- ・地域包括支援センター
- ・認知症キャラバンメイト
- ・福祉企画課(行政)
- ・ショッピングモール



声からはじまる活動 ～聞いた声・感じていることから～

Aさん (60代男性)



一人の時間が増えると頭がおかしくなる。だから家にいるときはほとんど散歩しているよ。家族は仕事があるから一人だね。



紹介



紹介
後押し



Aさんが住むエリアの
認知症地域支援推進員



紹介



Aさん、一人で近所を歩いているって
言ってたな。近くでウォーキングイ
ベントあるんだって。
どうかな？

行政
(基幹型地域包括支援センター)



主催は〇〇なんだね。知ってる！この時期な
らこのルートとおるのかな？
ここにも道があるんだよ。
ここから見る富士山はきれいだよ♪

Aさんが散歩ルート計画したらどうだろうと聞いてみた！→ 嬉しそう！

地元のキャラ
バンメイト

Aさんの
職場

Aさんと一緒に計画
する仲間たち！！

中止してるカフェの
参加者も誘いたいね

私も参加
したい！

チラシができれば〇さ
んも誘いたい！

ウォーキングをきっかけにAさん自身が生き生きとしている様子を
参加者がみて、声を掛け合える仲間が増えたら・・・♪

声からはじまる活動 ～聞いた声・感じていることから～



趣味の話

ベビーカーはみんな
で持ち上げ！

本人) みんなが喜んでくれたから
またやりたい！
散歩中の楽しみができた！

家族) 本人がいきいきしている！
積極的に外に出るようになった！

地域の人) 久しぶりにあったけど、元気そうでよかった。
これからも変わらない付き合いをしていくよ！お互い様だから！

ケアマネ) 地域の人とどういう付き合いがあるのかを知ることができた！
話題が増えた！



仕事の話

子育ての話

薬の相談

声からはじまる活動 ～聞いた声・感じていることから～

初めから認知症カフェにしようと思っていたわけではない
参加している皆さんの表情、そして何より、本人の表情をみて
“次はいつにする？”という投げかけをした。

→年4回の活動となった

毎回2か月ほどかけて、Aさんと一緒に計画をしている。

そもそも・・・

Aさん自身が声を出す場所がなかったら

声を聴いた人が、行政（基幹型地域包括支援センター）に伝えていなかったら

推進員が本人の声に耳を傾けていなかったら（ただ情報提供だけをしていたら）

行政と、地域の推進員が日ごろから対話をしていなかったら

地域の推進員が、地域住民とつながっていなかったら



家族も地域の人もケアマネも、
本人のイキイキしている姿に出会えなかった



すべての「やりたい」ができるわけではない。
ともに過ごし、考える人がいることが、本人にとって嬉しさや、楽しみになっている。
住まいを中心にして、馴染みの関係から切り離さない。

声からはじまる活動 ~聞いた声・感じていることから~

- * 若年性認知症の方の仕事場
- * 本人会
- * 認知症カフェ

などなど

各年 5月1日現在	H28 2016	H29 2017	H30 2018	H31・R1 2019	R2 2020	R3 2021	R4 2022	R5 2023
認知症 カフェ数	6	7	12	13	11	13	16	21



- ・お話
 - ・ウォーキング
 - ・はたけ倶楽部
 - ・音楽
 - ・ついでに買い物
 - ・打ちっぱなしゴルフ
 - ・ソフトボール
 - ・グラウンドゴルフ
- など



認知症サポーター養成講座

認知症を正しく理解し、認知症の人の理解を深め、
本人やその家族を温かく見守る応援者を増やす



サポーター養成講座受講時に
チラシ配布

認知症サポーターステップアップ講座

認知症の人への理解をさらに深め、
地域で共に活動する人材が増える



本人や家族などが直接発信できる場 / 本人や家族などの声が直接聞ける場



認知症キャラバンメイトの誕生



- *いろいろな場面で、本人が**発言**できること
- *本人や家族が集い、**出会う**ことのできる場を増やしていくこと
- ***相談しやすい・話しやすい体制**と専門職のスキルアップ

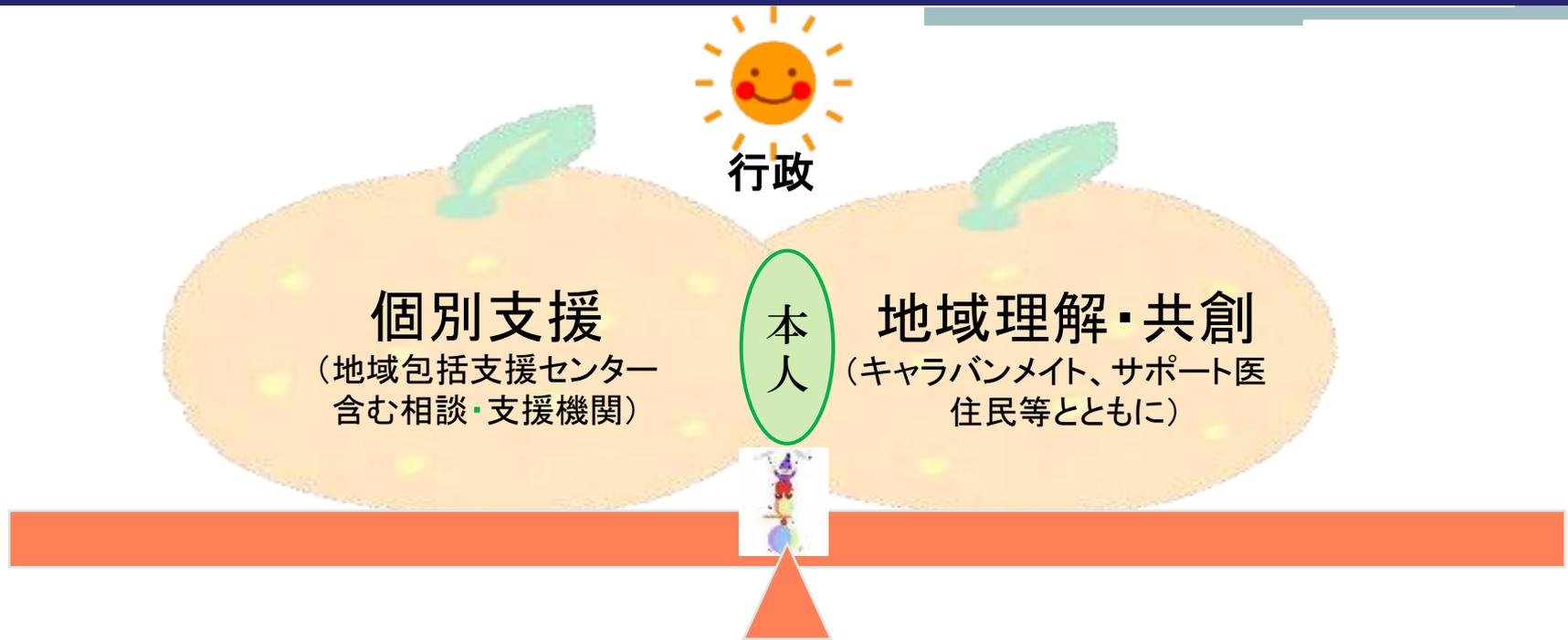
【ちょっと意識すると本人・家族・地域の声は 様々な場所で聴ける】

声=つぶやき *講演ではなく日常会話から

- 認知症カフェ
- 木工房「いつでもゆめを」
- 認知症啓発フォーラム
- 認知症ケアパス
- 認知症サポーター養成講座
- 認知症サポーターステップアップ講座（チームオレンジ）
- キャラバンメイト養成研修
- 本人会
- 地元新聞社などのメディア
 - パネル展
- 相談

など

それぞれの強みと役割を生かしながら



つながることで初めてまちが変化していく

地域包括支援センターの役割	個別支援の重要性を理解し、 相談や支援から、声と人を地域につないでいくこと	個別課題か 地域課題か 整理 ↓ 行動 (役割分担)
地域の役割	認知症地域支援推進員・認知症キャラバンメイト・認知症サポート医・住民 等が 認知症を正しく理解し、認知症の人への理解が深まることにより、 本人・家族等が相談機関や地域の活動につながるための橋渡し役となる 本人が望む(小さな)ことを、暮らし・地域の中でちょっといっしょに ＝個別支援との連動が生まれる	
行政の役割	双方に認知症の「人」の理解の大切さや、それぞれの役割を伝え続ける 両者に光を当て、バランスを取りながら連動をうみだす、息長く続けることが大切	

認知症施策推進大綱の柱に沿った 令和5年度 富士宮市の取り組み

5つの柱		主な取組	今後の取り組み
I	普及啓発 本人発信 支援	・認知症サポーター養成講座	・こどもサポーターの養成 ・30～50代へのアプローチ→7/31親子講座開催 ・講座内容への本人の声の反映、若年性認知症の理解促進 ・民生委員、保健委員
		・キャラバン・メイトの養成	・キャラバンメイトフォローアップ研修の開催年2回 学びと交流がテーマ 新たに活動できるキャラバンメイトの発掘・声かけ
			・キャラバンメイト養成研修 令和4年4月開催 次回令和6年開催予定 興味がありそうな人のリストアップ
		・アルツハイマー月間	・パネル展 市役所 8月23日～9月7日 うち8月28日(月)および9月6日(水)は 出張認知症カフェ&気になるあなたの相談会開催 ・パネル展 イオンモール 9月15日～27日 うち21日(木)講座 27日(水)定期カフェ
			その他啓発(広報ふじのみや 岳南朝日への記事掲載)
		・認知症啓発フォーラムの開催	・対象の選定、企画→「認知症への思いを知る～それぞれの立場から～」 本人・ミドル世代・ヤング世代の認知症とともに生きる方々から 話を聞き、これからできるアクションを考える。
		・当事者発信	・本人が語る会支援(オレンジドア富士宮 木工房) ・発信支援(ステップアップ講座年3回 認知症サポーター養成講座 カフェへの参加) ・県 ピアパートナー派遣 調整及び同行
		・啓発活動一般	・広報・岳南朝日(ステップアップ、カフェ等)への掲載 ・声のチラシ作成→クリアフォルダ ・厚生労働省動画の配信 ・市民アンケートの分析
・「認知症とともに生きる希望宣言」の展開 (富士宮市版)	・本人の声をチラシにして配布→クリアフォルダ作成(啓発グッズとして活用)		
II	予防	・脳活性化レク・脳トレ運動講座 ・認知症予防運動	・運動不足の改善 糖尿病・高血圧等の生活習慣病の予防 社会参加が認知症の発症を遅らせることができる可能性を啓発 (チラシ配布 教室などでの説明)
			・基本チェックリストの確認 (3分の2・3分の3該当者確認)・脳トレの紹介

5つの柱		主な取組	今後の取り組み
Ⅲ	医療・ケア・介護サービス・介護者への支援	・認知症地域支援推進員の配置	・認知症地域支援推進員連絡会の開催(2か月に1回) 各包括で目標設定する 推進員同士が活動の発表をする 推進員が積極的に研修に参加する
		・認知症ケアパスの作成	・認知症地域支援推進員を中心とした認知症ケアパスの見直しについて 具体的な活動の計画、実施 ・当事者を交えた意見交換の開催 何が必要かのワークショップ ・医療機関の実態把握 (予約の有無 検査内容 物忘れ外来の取り扱い等)
		・認知症初期集中支援チーム	・事例報告会の開催
		・認知症医療研究会の開催	・早期発見、早期対応、医療体制の整備に関すること ・1年1回データ分析
		・認知症疾患医療センターとの連携	・研修の参加 ・ケースの連携 ・BPSDに対する対応
		・認知症カフェの設置と支援	・カフェ運営の後方支援 ・カフェ連絡会の開催(年1回)・市民の求める居場所の発掘
		・伴走型支援事業の検討	・小規模、グループホーム部会への認知症の取組、本人の声を聞く研修の実施
		・認知症を抱える家族の会 後方支援	・家族会への出席 ・家族会への後方支援
Ⅳ	認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援 予防	・若年性認知症に対する対応	・若年性認知症コーディネーターの出張相談会企画 ・相談先の啓発 ・企業への啓発 ・1年に1回若年性認知症の実態把握(医療研究会)
		・若年性認知症支援ガイドブック(ケアパス)	・若年性認知症のページについて検討
		・若年性認知症居場所(仕事の場づくり)支援	・ワーキングデイ、就労支援事業所について学ぶ(担当) ・森のオレンジ食堂に関する意見交換 ・障害療育部門との連携 就労A・Bとの共同
		・認知症に関する取組を実施している企業等へ関わり	・サポーターシールの継続の検討
		・チームオレンジの構築(地域支援体制の強化)	・ステップアップ講座の開催 年3回以上 本人からの発信および共に考える時間 ・サポーター養成講座を受講した方へ、次のステップを選択できるようチラシの配布 広報への掲載 ・ステップアップ講座の岳朝への取材依頼
		・行方不明になる可能性のある高齢者等の事前登録	・事前登録R2年4月1日より運用開始 R4～お守りシールの開始 事業の評価(アンケート) ・富士宮警察署との連携(年1～2回程度)
		・行方不明者の他市町との広域連携	・ラジオfとの連携 ・富士市との情報共有
		・認知症に関する保険の検討	・導入他市町からの情報収集
		・成年後見制度の理解	・ステップアップ講座の理解啓発 ・十六市、カフェでの啓発 ・パネル展での啓発

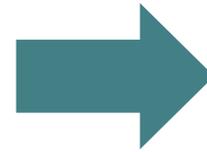
【まとめ】感じていること 今までの積み重ね まちが変わっていく

◎ 個別支援を丁寧に積み上げることで、様々な人と出会うことができた

個の声をきっかけに様々な立場の人がつながっていく

→ひとりのことを一緒に考えることで、結果がどうであれ、つながりができ相談員の糧となる
そのつながりが、次の誰かのためになることも・・・

本人・家族・住民・商店街・企業
医療や福祉の専門職
地域包括支援センター
生活支援コーディネーター などなど



共に考え、悩み、動く
↓
関わった方々の意識が変わる
↓
地域に広がっていく
(点から線、線から面へ)

◎ 生き生きしている本人・家族に出会う機会が増えた（ピア活動）

→個の声をきっかけに徐々に活動が増えてきている。

認知症カフェの大半は本人・家族の声がきっかけとなり

立ち上がっているため、自然と参加しており出会いの場となっている

ピア（本人）の一言にかなうものはない

ピアは地域に沢山いる



◎ 本人や家族と地域をつなぐ「橋渡し役」が増えている

→様々な立場の方が、「橋渡し役」になっている

自分自身が楽しんでいるため、くちこみで人が集まる

「本人」も「家族」も「地域住民」も「専門職」もみんな、一緒に悩んで、行動してくれる仲間！

さみしい気持ちになったり、悔しいこともあるけど、とことん話して、一緒に動いていると、力になってくれる仲間が自然に増えた。

個でできることは限界がある。だから地域とともに。相談できる相手がいるってありがたい！

最後に、市職員として私が気付いたこと

持続・発展した事業は、どういうものだったか？
行政として、事業の取捨選択をどうするか？

見守りSOS
ネットワーク構築事業

認知症カフェ

チームオレンジ

< 行政が陥りやすい傾向 >

国の新しい事業をこなそうと焦る

一時は、盛り上がったのに・・・

担当者が変わったら、持続・発展しなくなっちゃった・・・

大事なポイント

【本人の顔が見える活動は継続する】互いが地域の一人としての意識・関係を
・予算を付けて支援者の活動支援を⇒だけでは事業は続かない

【事業の良し悪しは、本人と共に】企画・実施・評価を、本人の声・姿をもとに
・行政の思い込みで実施・評価する事業は、本人が求め、利用し易いものにならない
・一人の本人が本当に居やすい空間・事業に、二人目、三人目が集まるもの

【市の方針・姿勢（本人とともに、本人視点）を丁寧に、繰り返し共有・語り合う】
・・・関係機関、住民が自発的・中長期的に活動しやすい環境を育てる